

2013  
10  
No.137

# 喜多方普及だより



～地域の気象条件とマッチしたキュウリの施設栽培～

—指導・支援体制の充実により更なる産地拡大を目指す!—

喜多方地域は、夏期の豊富な日照などの気象条件が、ウリ科のキュウリに適しており、J A会津いいで夏秋きゅうり部会では、124名の生産者が13.9haのキュウリ栽培に取り組んでいます。夏秋キュウリ産地としては特に施設化が進んでおり、栽培面積の約7割が施設化されています。

産地の生産量拡大に向け、J A及び生産部会による技術指導体制も充実しており、5月から9月の毎月、生産者とともにほ場巡回や現地指導会を開催し、施設栽培に適した品種の導入や肥培管理、病虫害防除対策など、部会全体のレベルアップを図っています。

また、I・Uターンなどの新規生産者に対しては、J Aによるマイスタースタッフ（地域ごとに任命された熟練生産者）が栽培管理等について指導や助言を行うなど、早期の技術習得に向けた支援が行われています。

最近では、雇用労力の活用による規模拡大や法人化など、より一層の経営発展を目指す生産者も増えており、産地として新たな方向性も見えてきました。

風評被害による価格低迷など、東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、販売面で苦慮している状況は否めませんが、安定した収量や所得が見込まれる夏秋キュウリ栽培は、喜多方地域の主力品目の一つとして、今後も関係機関と連携を図りながら、作付推進や栽培支援に努めてまいります。



現地指導会

# 地元の堆肥で土づくりを進めよう!

放射性セシウムへの不安から、堆肥の購入やほ場への施用を控えている方がいますが、放射性セシウムの濃度は、規制値の設定やモニタリングの実施により安全性が確認されています。

## Q 堆肥中の放射性セシウムは大丈夫?

A 流通している堆肥は、暫定許容値の400Bq / kg以下です。  
400Bq/kgの堆肥を毎年10a当たり 2 トンを入れても土壌は震災前と同じ程度におさまる値とされていますので、流通している堆肥は安心して使用することができます。

## Q 堆肥はどのくらいほ場に入れたら良い?

A 野菜であれば、10a当たり 1～2 トンを目安に、定植 1 か月以上前に散布します。  
堆肥には、窒素、リン酸、カリウム等の肥料成分が含まれているので、計算値により元肥の施用量を減らすことができます。減肥する量は、堆肥の分析値を基に計算します。

### 【牛ふん堆肥を 1 トン施用した場合の減肥例】 (分析値 N:1.1%, P:1.5%, K:1.5%の場合)

窒素成分 (%) × 堆肥の投入量 (kg) × 有効化率 (%) = 有効成分  
1.1                      1,000                      20                      2.2kg (減肥可能)

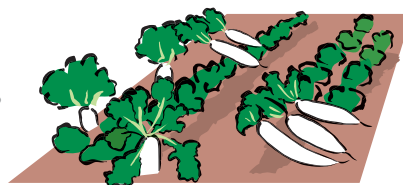
リン酸成分 (%) × 堆肥の投入量 (kg) × 有効化率 (%) = 有効成分  
1.5                      1,000                      60                      9.0kg (減肥可能)

カリウム成分 (%) × 堆肥の投入量 (kg) × 有効化率 (%) = 有効成分  
1.5                      1,000                      90                      13.5kg (減肥可能)

### 【堆肥別有効化率の目安】

	有効化率 (%) ※		
	N	P	K
牛ふん堆肥	20	60	90
豚ふん堆肥	50	70	90
鶏ふん堆肥	60	70	90

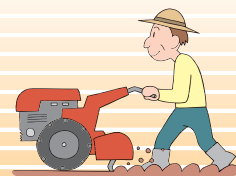
※導入初年における肥効率 (%)



## Q 堆肥の運搬や散布に対する支援はないの?

A 今年から来年 6 月までの期間、東京電力 (株) の支援により堆肥広域流通促進対策が行なわれています。

地域の協議会 (構成員: 市町村、JA等) が、堆肥が滞留している畜産農家と堆肥が必要な耕種農家をマッチングし、運搬と散布に係る費用を東京電力が負担する対策です。当管内における取り組みについては、別途お知らせしますのでご活用願います。



# 「集落環境診断」で鳥獣被害をなくそう!



宮古共同畑電気柵

## 1. 現状

喜多方地域では、サルやクマによる農作物被害が主でしたが、最近はイノシシの被害も見られます。平成22年度の農作物被害額は約1,900万円で、今後も増加が予想されます。

## 2. 対策

対策は、環境整備、個体数調整、被害防除を3つの柱とし、総合的に実施します。

### (1) 環境整備

鳥獣が住みにくい環境を作ります。やぶの刈払い、森林間伐、未利用果樹伐採、田畑に未収穫物を残さないこと、生ゴミ・米ぬか・そばかすなど、鳥獣を引き寄せる餌となる食べ物を捨てないことも重要です。

### (2) 個体調整

狩猟や有害鳥獣駆除など、銃器やわなにより捕獲します。

### (3) 被害駆除

ほ場へ柵を設置し、鳥獣の進入を防止したり花火により追払います。主要な手段が電気柵の設置で、高電圧の電気によって野生動物に電気ショックを与え、撃退する方法です。

これらの対策を実施するにあたり、鳥獣被害防止特措法に基づき、市町村に対し国からの助成措置があります。また、各種対策を地域の実情に応じて効果的に進める手法に、集落環境診断があります。集落環境診断は、地域の住民全体で周辺の鳥獣生息から見た環境を再点検し、被害が発生する仕組みやその対策について整理し、集落全体で野生動物を誘引しない環境を作っていくために開発された合意形成の手法です。これにより面的な防除が可能となり高い防除効果が期待できます。



集落で話し合い

## 3. 対策の実施状況

喜多方市では、各集落で集落環境診断を進めており、これまで10集落で診断を終えました。今後は、この診断結果に沿って対策が進められる予定です。

また、西会津町では平成19年度からサルの通年捕獲に取組み、平成20年度には西会津町有害鳥獣対策協議会を組織し、「自分たちの畑は自分たちで守る」という方針に沿って活動しています。協議会では、銃器等による捕獲のみに頼ることなく、住民の方々も被害防除を積極的に行っています。捕獲や防除にあたっては、鳥獣被害防止総合対策事業や森林環境交付金事業などを活用し、

総合的な対策を町内全域で進めており、先進的な取り組みを行っています。

西会津町奥川地区の中町集落や出戸集落、喜多方市熱塩加納町の板ノ沢集落や山都町の宮古集落では、事業を活用しサル防除の電気柵設置を積極的に進め、共同畑の取組みも行い効果を上げています。喜多方市高郷町の本村集落や山都町の宮古集落では、市事業を活用し集落ぐるみでクマ防除の電気柵設置を行っています。

なお、管内各市町村では電気柵設置助成、追払用花火の配布などを行っていますので、鳥獣害でお困りの方は各市町村又は当所にご相談ください。



現地をまわる

# 祝 福島県農業賞受賞

小池徳男さん（喜多方市熊倉町）

喜多方市の小池徳男さん・佐代子さんご夫妻が、第54回福島県農業賞知事賞を受賞されました。小池さんは、生乳生産量及び乳質ともに県内トップレベルの酪農経営を確立され、牛にやさしい飼育環境のもと、現在も1頭当たり年間搾乳量12,000kgを目標に日夜努力されています。また、牧野組合長や酪農同志会会長、牛群検定組合長を務め、酪農家の技術向上に取り組んできました。



農業賞表彰式

さらに、小池牧場では、平成11年から酪農体験牧場として県内外から多くの小・中学生を受け入れてきました。これらの活動が高い評価を受け、農業経営改善部門で受賞となりました。なお、表彰式は9月10日に杉妻会館（福島市）で行われ、（故）佐代子さんに代わって後継者夫妻である輝紀さん・寿子さんも出席されました。

## ガンバってます！ 鈴木タケ子さん・遠藤祐子さん（北塩原村大塩）

鈴木さんと遠藤さんは、ともに平成20年から10a程のリンドウ栽培に取り組み、6年目を迎えました。リンドウ畑には、常にお二人の姿があり、手入れの行き届いたほ場で、高い収量や品質を確保されています。しっかりした管理に裏打ちされた品質は、出荷先の市場や地元直売所で高い評価を得ています。



遠藤さん・鈴木さん

お二人は、JA会津いいで花き部に所属され、JA主催の勉強会や先進地研修に参加されるなど、積極的に新しい技術習得にも励まれています。また、ほ場が近いこともあり、お互いに切磋琢磨され、常に高品質なリンドウ栽培を目指されています。今後も、管内リンドウ栽培の牽引役として活躍されることが期待されます。

## トピックス

雄国山麓で夏ホウレンソウに挑戦！（喜多方市）



夏ホウレンソウの収穫

ホウレンソウは夏季の高温時には発芽率が低下することから、冷涼な高冷地などに栽培地が限定されています。今年から、喜多方市では雄国山麓の気候を活かした取組みとして、夏ホウレンソウの試験栽培を始めました。

熊倉地区と駒形地区の2か所に設置した試験栽培用ハウスでは、土づくりをはじめ夏ホウレンソウ産地の事例を参考に高温抑制資材や技術の効果について検証を行っています。

今後は、雄国山麓などの遊休農地活用として、新たな作物導入の参考とするため、十分な検証に基づき技術の体系化を進めてまいります。

**農薬使用基準を遵守し、農薬は適正に使用しましょう！  
農作業事故が増えています。余裕をもった作業を心がけましょう。**

～ 内容に関するお問い合わせ、農業に関する相談はこちらへ～

会津農林事務所 喜多方農業普及所

住所 〒966-0901 喜多方市松山町鳥見山字下天神6-3

電話 0241-24-5743、5745 FAX 24-5746 E-mail kitakata.af04@pref.fukushima.lg.jp

ホームページ

喜多方農業普及所

検索 

